

行事予定

地域がん診療研修会（化学療法）

日時／令和4年1月28日(金)18:30～ ※オンライン開催
 座長／福井赤十字病院 外科部長 青竹 利治
 内容／「抗がん剤のやめ時」
 講師／日本医科大学武蔵小杉病院
 腫瘍内科 教授 勝俣 範之 先生

地域がん診療研修会（早期診断）

日時／令和4年2月16日(水)18:30～ ※オンライン開催
 内容／「乳がん治療の最新情報と
 早期発見のための試み」
 講師／福井赤十字病院 がん診療センター
 副センター長・外科部長 田中 文恵

消化器癌イブニングセミナー

日時／令和4年2月28日(月)18:30～ ※オンライン開催
 総合座長／福井赤十字病院 外科部長 吉羽 秀磨
 内容・演者／
 「当科における膵疾患の治療について」
 福井赤十字病院 外科部長 土居 幸司
 「胃癌に対するロボット支援手術
 ～導入からアドバンス手術への適応まで～」
 金沢大学医薬保健研究域医学系
 消化管外科学／乳腺外科学 教授 稲木 紀幸 先生

片頭痛Webイブニングセミナー

日時／令和4年3月16日(水)19:00～
 座長／おかもと内科クリニック 院長 岡本 清也 先生
 内容／「毎日飲んで頭痛薬が効かなくなった!?
 ～薬剤の使用過多による頭痛～」
 講師／福井赤十字病院 脳神経外科部長 早瀬 睦

開催報告

歯科イブニングセミナー

令和3年11月17日(水)に、「薬剤関連性顎骨壊死と口腔ケア」をテーマとして歯科イブニングセミナーを開催いたしました。
 当日はオンラインにて15名の方にご参加いただき、「顎骨壊死に関して認識を広げることができた」「今年度は、山田先生だけでなく、歯科衛生士の講演もありよかった」などのご意見が聞かれました。

炎症性腸疾患イブニングセミナー

標記セミナーを令和3年12月8日(水)に開催いたしました。座長をいなだクリニック 稲田章夫先生に務めていただき、道上学消化器内科部長より「炎症性腸疾患の基礎知識」について話題提供いたしました。
 オンラインと会場のハイブリット型で開催し、計47名の方にご参加いただきました。講演後には活発な質疑応答が行われ、基礎的な知識を整理できる時間となりました。

地域がん診療研修会（緩和）

令和3年11月26日(金)、聖隷三方原病院 副院長 緩和と支持治療科部長 森田達也先生を招聘し、地域がん診療研修会（緩和）を開催しました。
 当日は、オンラインで開催し、院外の先生方をはじめ、38名の方にご参加いただきました。参加者からは、「学問的にとどまらず、実践的でとてもわかりやすかった」「実臨床に即した貴重な講演であった」などの感想の声が寄せられました。実際の臨床に活かせる貴重な講演会となりました。

Partner

福井赤十字病院連携通信〈パートナー〉

Japanese Red Cross Fukui Hospital vol.077 令和4年1月発行



「神磯の鳥居に臨む」撮影／初期臨床研修医 横井 紀之

新年のご挨拶 令和4年 元旦

明けましておめでとうございます。連携の先生方にはご健勝にて良き年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年猛威を振るったCOVID-19は、第5波のピーク時から比べると感染状況もようやく一旦落ち着いた局面にありますが、当院は今後も引き続き感染症指定医療機関としてコロナ対応に全力であたってまいります。また、地域医療支援病院として、先生方との医療連携を更に深め、地域のニーズに応えてまいります。

昨年は、中期ビジョンの「地域に寄り添う良質な医療を提供する病院になる」という目標に沿い、5月にCTの1台を造影剤使用量の低減が可能でより安全な新機種に更新しました。10月にはRAPID(自動脳血流解析ソフト)の導入を行いました。これにより、脳梗塞急性期患者の中で発症時間が不明な症例や、健常確認から6時間以上経過した症例の中で、血栓

回収療法が有効な症例を見つけ出すことができるようになりました。また、新たに手術支援ロボットダヴィンチXiを用いた肝胆膵外科手術を準備しており、今後も低侵襲外科治療を積極的に推進してまいります。がん領域では、オンライン公開講座でお知らせしたように、遺伝性がんへの取り組みも始めています。

このように、本年も職員一同、地域としての医療の質向上に貢献できるように努めてまいります。今後もなお一層のご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

末尾ながら、皆様の益々のご発展を心より祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



院長 高木 治樹

福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

地域医療連携課

受付時間／平日 8:00～18:30、土曜 8:30～12:30
 TEL 0776-36-4110 (直通)
 FAX 0776-36-0240 (専用)



<http://www.fukui-med.jrc.or.jp>
 e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第77号発行 令和4年1月 福井赤十字病院



福井赤十字病院

眼科検査の進歩を眼科手術に反映させる

眼科副部長
額田 和之



より満足度の高い白内障治療を

白内障手術は完成された安全な手術で多くの施設で行われています。ただ、術後の満足度は患者によって異なります。その一つの要因が乱視です。当院では、最新の機械を駆使し、切開位置の工夫や乱視矯正人工レンズを使用することで、乱視を軽減し、より術後の満足度の高い手術を目指しています。

当院では、2021年にCASIA2を県内初導入しました。角膜疾患、緑内障、白内障の精度の高い診断に役立ちます。特に不正な角膜閉塞隅角緑内障のリスク判断、眼内コンタクトレンズICLの適応&術後検査、白内障の程度診断、眼内レンズの偏位&傾きにはこの機械でしか測ることができません。

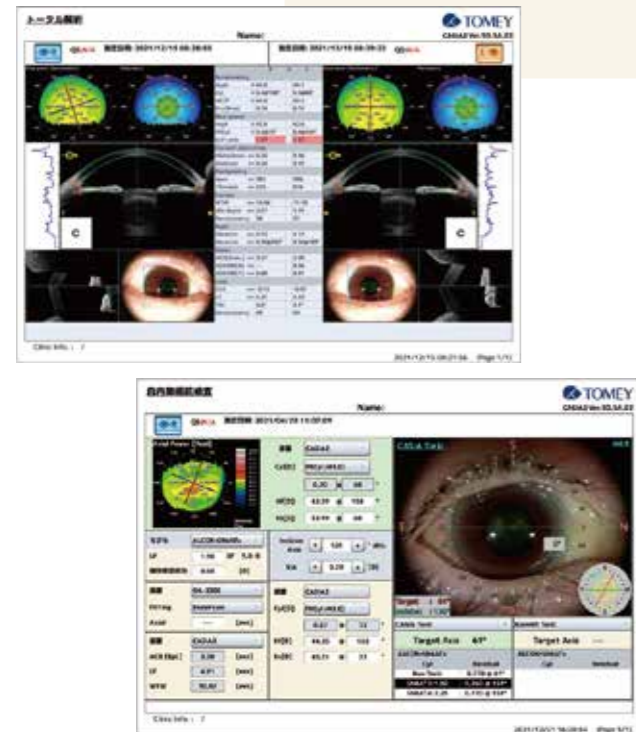


図1 / 乱視と軸の測定値
推奨される乱視矯正人工レンズも提示される

また、Argos & Verion Image Guided Systemも県内初導入しました。高い眼軸長データ所得率、セグメント方式採用により正確な眼内レンズ選択ができます。さらに、術前検査で結膜血管や虹彩紋理を把握し、手術中の眼球の動きを追随しながら手術顕微鏡にオーバーレイして正確な乱視矯正白内障手術を行うことができます。ともにより高い裸眼視力をもたらします。

また、角膜から水晶体後面までの術前の総合的な評価ができます。角膜の厚み、前房深度、水晶体の厚み、水晶体の傾きなどが測定できるため、これまで主治医の主観的な評価しかできなかった事が数値化される事で難症例と思われる症例を上級医へ相談しやすくなり、病院全体の手術成績も大きく向上しました。

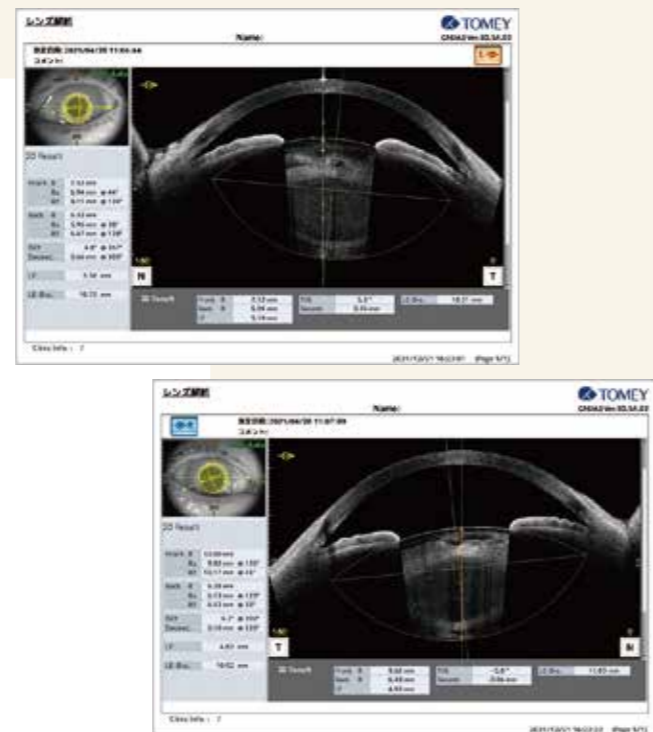


図2 / 水晶体(白内障)の総合評価
同一症例の左右眼。水晶体の厚みの違い、前房深度や傾きの左右差が顕著である。チン小帯脆弱の可能性があり、難症例である

より良いタイミングで 緑内障手術をするために～

わが国の緑内障の有病率は、40歳以上の5%、そのうち開放隅角緑内障が3.9%で、その中で正常眼圧緑内障(眼圧が正常なタイプ)は3.6%程度とされています。閉塞隅角緑内障(急性緑内障を起こすタイプ)は、地域特性はあるようですが、0.6%から2.2%とされています。

緑内障治療は、この開放隅角と閉塞隅角の診断が極めて重要です。開放隅角緑内障の第一選択は点眼薬物治療にあるのに対して、閉塞隅角緑内障は第一選択として、観血的治療であるからです。その診断に、CASIA2を用いて、閉塞隅角緑内障のリスクを数値化し適切なタイミングで手術を行えるようになりました。

開放隅角緑内障については、先ほどにも述べたように点眼薬物治療が第一選択ですが、進行していく症例に対しては、手術が時として必要になります。眼圧を下降させることのみが、現在緑内障治療で唯一エビデンスがある治療なのですが、その眼圧でさえも本当に正確な評価ができているのかという議論がされています。

そのため当院では、Reichert Ocular Response Anarizer ORAを2021年に導入しました(県内2台目)。空気圧出による眼圧計を進化させたものです。眼圧を瞬間的に2回測定し、その変化により Corneal Hysteresis CH(角膜可塑性)を計測します。CHは緑内障リスクの重要な予測因子として注目されています(緑内障ガイドラインにも進行因子として記載)。眼圧が低いにも関わらず進行する緑内障に対してはCHの測定が重要で、適切な手術治療の介入に役立っています。

またそのほかにも、眼圧変動にも注視しております。眼圧変動は、日常診療の中で評価が難しいとされています。季節変動、日内変動、体位変動が報告されていますが、その中で、体位変動に注目し、当院にあるIcare rebound tonometerを使用することで、体位変動の測定が可能となり、Reichert Ocular Response Anarizer ORAと同様に適切な手術治療の介入時期の検討に役立っています。



図3 / Reichert Ocular Response Anarizer ORA

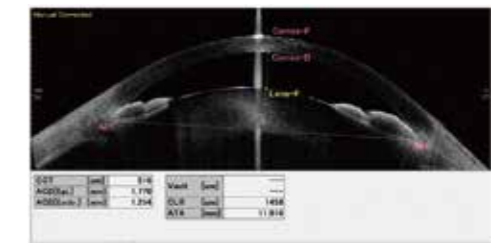


図4 / CASIAによる閉塞隅角の評価
隅角が閉塞していることが予測され、白内障手術に加えて隅角癒着解離術(緑内障手術)を併用することが検討される症例



図5 / Icare rebound tonometer
Icareは、測定時痛みもなく簡便な機械で、小児の眼圧測定にも活用されます。また、座位だけでなく、様々なアプローチにて眼圧測定できるため、体位変動による眼圧変化を捉えることができます